

JA鳥取県人権・同和問題対策推進本部からのお知らせ

JAグループ鳥取では人権・同和問題に対して「第9次（2024～2026年度）JA鳥取県人権・同和問題対策推進方針」をもとに、差別と偏見のない社会の実現のために取り組んでいきます。

組合員の方はもとより、地域住民の方にも人権・同和問題が身近な存在であることに気づいてもらうため、第9次期間中（2024～2026年度）、人権・同和問題に対する啓発記事を年4回連載します。

第41回「アンコンシャス・バイアス」

私たちは、何かを見たり、聞いたり、感じたりしたときなどに、無意識に「こうだ」と思いこむことがあります。これを「アンコンシャス・バイアス」といいます。

この「無意識」というものがアンコンシャス・バイアスの特徴であり、それ自体は良い悪いといった判断をされるべきものではありません。しかし、アンコンシャス・バイアスに起因する発言や行動によって、第三者に不快な感情を与えたり、傷つけたりする事象が発生しています。例えば、家事や育児は女性の仕事、男性は人前で泣くべきではない、定時で帰る従業員はやる気がないなどの偏見や思い込みがハラスメントを引き起こすことがあります。

問題なのは、アンコンシャス・バイアスそのものではなく、「自分のアンコンシャス・バイアスに気付こうとしないこと」にあります。これは、脳がストレスを回避するために、自分にとって都合のよい解釈をしてしまう「自己防衛心」から生まれると考えられています。

環境やインターネットからの影響などにより、いつの間にか植え付けられた偏見や差別意識は、実は誰にでもあります。多様性を認め合う社会の実現に向けての第一歩は、自分の内に潜むアンコンシャス・バイアスにしっかり目を向けることです。普段から先入観を持たずに人の話を聞き、対話する姿勢を徹底することこそが、解決の早道なのかもしれません。

まずは日々の生活を振り返って、自分の言動に思い当たるものがないかチェックしてみるのも良いのではないのでしょうか。